

自己のあり方・生き方について語り合うことを、

児童と教師が共に楽しむ道徳授業を目指して

野村 宏行（東京学芸大学附属大泉小学校）

1 道徳授業で大切にしている3つの視点+1

初任のころは道徳授業が苦手であった。しかし、道徳授業の特質を考えながら実践を重ねる中で、道徳授業の魅力に気づき、少しずつ授業を楽しめるようになってきた。

私が毎週の道徳授業の実践を通して気づいたこと、大切にしている点は、授業では以下の3点である。加えて「書く活動」については、児童と教師の思いを交流する機会として、大切にしている。

- (1) 教師が児童と語り合うことを楽しむ姿勢をもつ
- (2) 「発問」と「予想される児童の考え」を吟味する
- (3) 児童の思いが響き合うことを大切にする
- + 1 児童一人一人を励ます・認める時間に
—「道徳カード」でのやりとりを通じて—

(1) 教師が児童と語り合うことを楽しむ姿勢をもつ

道徳授業では、他教科の学習ではあまり発言をしない児童が、挙手して発言をすることが多いと感じている。以前、道徳授業についてどんな思いをもっているか、児童にアンケートをとった際、以下のような声があった。

※3年生の学年末にアンケートを実施

「私はこう見えてはずかしがり屋なので、劇はやめてほしいと思いました。でも、自分で意見を言うとスッキリして、また発表したいと思うときが多かったです。」
「道徳は答えがなくて、自分で答えを探すのが楽しかった。」

この声から、自分の大切にしていることや価値観について考え、それを表現することは、児童にとって楽しいことであることが感じられた。それは私が道徳授業を重ねる中で、感じてきたことでもある。自分がどうありたいか、どう生きていくのか、何を大切にしていけるのか、ということを考え、表現し、話し合う活動は、児童にとって魅力的なことなのだろう。

そこで大切にしたいのは、そのような道徳授業の魅力が教師が理解して、児童と自己のあり方や生き方について語り合うことを、教師自身が楽しむことである。教師が児童の思いを聞くことを楽しめると、自然と意見の聞き方は共感的になり、意見に対する返し方も、児童の思いを尊重したものになる。そうすると、児童はますます考えなくなったり、自分が認められていると感じていくのではないだろうか。

反対に「このような意見を引き出さなければ」「最終的にこんな形にしなければ」という思いで授業を進めていくと、児童が追い込まれたり、教師の顔色をうかがったりするようになる。それは本当に児童のため授業といえるのだろうか。考えさせたい意見がでないときは、教師が投げかければよいのである。

(2) 「発問」と「予想される児童の考え」を吟味する

しかし、単に児童と語り合うことを楽しめばよいだけでなく、教師は明確な指導観の元に道徳授業を行っていく必要がある。教師が児童に考えさせたいテーマをよく考え、話し合いが深まるように準備をして授業に臨みたい。

児童の大切にしていることや価値観が最も表れるのは中心発問である。中心発問での問いかけを、児童が考えたくなり、表現したくなるようなものに、工夫するようにしている。学習テーマに結びつき、児童が内面を見つめるような発問を考えていきたい。

例) 自分の花を感じるようになって、あやはどんな思いで暮らしているか(花さき山)
「石塚さんらしさ」とは、一言で言うとどんなものか(炎のタックルマン: 自作資料)
「ぼく」のしたことは、価値のあることだと思うか。(捨ったりんご)

授業での話し合いを深めていくためには、それに加えて、予想される児童の考えを、教師が類型化して予想しておくことが重要である。そのことにより、板書で児童の思考を整理して、それぞれの考えを見つめることができる。さらに児童が予想外、予想以上の意見を述べた時にも柔軟に対処できるし、それを楽しむ余裕も生まれてくる。

(3) 児童の思いが響き合うことを大切にす

道徳授業の魅力は、仲間の考えを聞いて自分も考える、学び合いにある。教師と児童の一问一答式ではなく、児童それぞれの思いが響き合う授業にしていきたい。それにより、さらに他者理解が深まり、豊かな学び合いが生まれていくと考える。

児童の思いの響き合いを生むためには、児童の発言をただ順に板書していくような授業スタイルから脱却していく必要がある。児童の発言をメモしながら聞き、まとめて板書する方法と、一つずつ聞いて板書する方法を使い分けることは大きなポイントである。それに関連して、板書を構造的に行い、児童の思考を整理していくことも必要であろう。

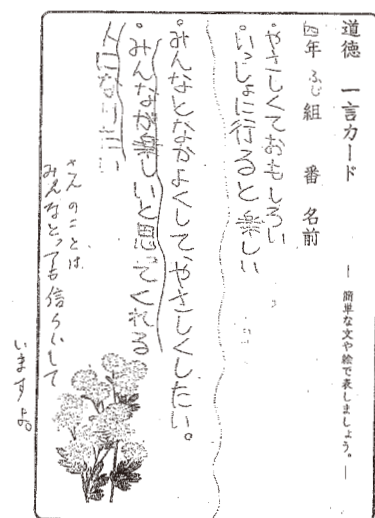
また、児童は自然と友達の見解を受けて発言していることが多い。教師がそのような学び方に敏感に気づき、価値づけていくことも大切にしている。さらに、児童の見解の聞き方を共感的なものにして、温かな雰囲気の中で話し合えるようにしている。

+ 1 児童一人一人を励ます・認める時間に「道徳カード」でのやりとりを通じて

「道徳ノートを書いて、先生の言葉がくると、これからがんばろう、これからはこういうことをやめようなどと思うから、道徳ノートを書いてよかったです。」

これは前述のアンケートにあった、ある児童の声である。「道徳が好き」という一番多い理由は、「自分の考えをノートに書くことが好き」であった。書くことによって、自分の考えをさらに深めていく、そしてそれが自分の足跡になって残っていくことは、児童にとっても、学習としても価値のあることだと考えている。

今は B6 サイズの小さなカードに、一言、自己のふりかえりや感想などを書かせるようにしている。小さなカードだと児童は気負いなく書ける。ノートに広く書かせるよりも、逆に多く書いている印象がある。そして、その道徳カードを児童と教師の心のふれあいの場にしたいと考えている。児童の思いを受け、教師がコメントを書くことを通して、一人一人を認め、励まし、もっとお互いを知り合える機会にしたい。児童をもっと知り、もっと好きになる機会として、カードを読むのが楽しみである。



2

実践事例 道徳学習指導案

平成 20 年 3 月 19 日
 東京学芸大学附属大泉小学校
 第 3 学年うめ組 40 名
 授業者 野村 宏行

1. 主題名 努力を重ねる 1 - (3) 勤勉・努力

2. 資料名 医学の道へ進みたいー野口英世 『「3年生の道とく」文溪堂』

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

困難があってもくじけず、自分の目標に向かって努力することは、よりよい成長の土台となるものである。反復練習のような、地道でつらいようなことでも一生懸命やりとげることが自分の力になっていく。しかし今日では、楽にことをすませることが「効率化」と美化されたり、まじめや地道な努力が軽く見られたりする声も聞こえてくる。

このような時代だからこそ、丁寧に努力を重ねていく姿勢を大切すべきである。自分の夢や目標を大事にし、それに向かって努力を惜しまない、前向きな姿勢を子どもたちには育てていきたい。本時は、困難があってもあきらめず、努力を重ねていくことについて、児童とともに語り合っていく一時間にしたい。

(2) 児童の実態について

学習に前向きに取り組む児童が多い。分からないことを何度も聞きに来たり、知りたいことはとことんこだわって調べたりと、ねばり強く課題に取り組む子も見られ、学習態度は良好である。また、水泳や長縄などでも苦手な子があきらめずに練習し、できるようになる場面も多く見られた。

しかし、そのような前向きな態度も、周りに影響されていることが大きい。助け合うことはよいことだが、教師が見ていないと手を抜いたり、作品を作り上げていく過程で疲れると雑になっていったりと、個人で見えていくと大きな差が見られる。めあてを決めて取り組むのではなく、漫然と活動するような活動も見られ、指導をすることがある。本時を通して、努力を続けること、丁寧に仕事をしていくことの大切さを一人一人に感じさせたい。また、資料から夢をもつことについても考えさせたい。

(3) 資料について

目標に向かって一心に努力する野口英世の姿が、心をうつ資料である。今からは想像するのも難しいような困難の中で、それでも努力を続けたこと、努力が実を結び確かな力となったことなど、努力を続ける過程と結果が印象的に描かれていることで、子どもたちは感動するとともに努力のよさを実感できるだろう。

また、勉学に対する努力が将来的な夢にも繋がっていく点が良い。子どもたちが日々勉強していることの意義を感じ、動機付けにつながると思われる。

英世を支える母シカや周りの優しさ・思いが、努力を続ける拠り所になっていることも注目すべき点である。努力を続けるに動機には、「周りの期待に応えたい。」ということもある。一の柱のねらいからはずれない程度に考えたい内容である。

4. 指導の工夫

(1) 中心発問の工夫

テーマに迫る発問にし、それを類型化して予想しておくことで、中心発問での話し合いが深まるようにした。

(2) 展開後段の工夫

本時では、展開後段で学習感想「野口英世の生き方から学んだこと・自分はめあてをもって努力しているか。」を書く。学習したことや野口英世の生き方を、自分のふりかえりにつなげていく書くことがねらいである。

5. 本時の展開

(1) ねらい：自分の夢や目標をもち、それに向かって努力を続ける心情をはぐくむ。

(2) 展開

| | 学習活動（主な発問と予想される児童の考え） | 指導上の ◇手だて・留意点 |
|--------|--|---|
| 導 入 | 1. 学習に対しての意欲をもつ ○ 野口英世とはどんな人物か。 ・千円札に載っている人だよ。 ・病気の研究をしていたと、伝記で読んだ。 | ◇資料への興味・感心をもち、学習への意欲を高めるようにする。 |
| 展 開 | 2. 「医学の道に進みたいー野口英世」を読んで話し合う ①となり町の高等小学校に通うとき、清作はどんなことを考えていたか。 ・勉強をして、立派になるんだ。 ・負けないぞ。 ・つらいけど、がんばろう。 ・もう、逃げ出したい。 ②手が動いたとき、清作はどんな気持ちだったか。 ・こんなことがあるなんて。 ・お医者さんってすばらしい。 ・みんな、ありがとう。 | ・大変さを具体的に説明し、状況を把握させる。 ◇マイナス意見も大切にし、それを乗り越えたことを考える。 ◇勉学を続ける意欲や周りへの感謝を考える。 |
| | ③仕事をしながら働く清作を支えていたものは何だと思うか。 ・ここまで努力してきたからあきらめたくない。(自分の願い) ・自分も人を助けられる医者になりたい。(夢への思い) ・これまでがんばってきたんだ。ぼくはできる。(逆境を乗り越える気持ち) ・お母さんが見てくれている。(母への思い) ・助けてくれた人に恩返しをしたい。(周りへの感謝・思い) 3. 学習したことを自分のあり方につなげて考える ○学習感想「野口英世の生き方から学んだこと」を書く。 ・つらいことがあっても、最後まであきらめないこと。 ・努力を続けていけば、いつか夢は叶う。 ・自分が努力することで、周りの人もうれしくなる。 ・こんなにがんばっている人がいるから、もっと自分もがんばりたい。 ・自分も清作さんのようになりたい。 | ◇体調的な大変さを説明し、それを支えたものについて考える。 ・意見の種類毎に、グルーピングして板書する。 ・道徳ノートに自分の考えを表す。 ・自分が本時で勉強したことと、自己のふりかえりを自由に記述する。 |
| 終 末 | 4. 学習をまとめる ○ 教師の説話 | ・落ち着いた雰囲気でもとめる。 |

- (3) 評価：清作に共感し、努力することに関して自分の考えを深めることができたか。
努力することに関して、自分の考え方やあり方を正しく振り返ることができたか。

6. 授業記録 (時間は、授業が始まってからの経過時間)

【導入】00分

T01:最後の授業なので、気合いを入れていきましょう。今日は、みなさんにとっても知ってもらいたいことがあります。この人、知っていますか。(顔写真を提示)

C :知ってる！野口英世だ。(大騒ぎ)

T02:(千円札を見せて)みんなの千円札にのっている人ですね。みんなが知っているということは、有名な人なんです。先生が子どものころは、千円札は違う人だったけど、それでも私は知っていました。この人は世界的に有名なお医者さんで、昔、大変な病気があったとき、それを解決するために努力した人です。詳しくはあとで学習しますが、この野口さんが小さいとき、どんな人生を送っていたかなあとということです。それを今日はみんなで考えていきたいと思います。

【展開前段】05分

資料提示(6分)

T03:というお話です。あったように、手をやけどで、すごい大変な状況になったんです。みんなより、ちょっと年上になった頃ですね。清作さん、今の中学校に行くことになりました。その中学校は、隣町にありました。往復12kmの道のりですね。私が中学生の頃は、4km走るのに15分から20分くらいかかってました。その3倍ですね。

[発問①]

隣町の学校に行く清作は、どんな気持ちで毎日、学校に行っていたのでしょうか。

君たちが毎日学校に来る気持ちとは、ちょっと違うと思うんだけど。どうでしょう。

13分

C01:私だったら、とてもつらいと思うんですけど、一生懸命がんばって、がんばろうという気持ち。

T04:なるほど、自分におきかえて考えたのはすばらしいですね。

C02:私が思ったのは、野口英世は、左手が不自由で、農作業や体育ができなかったから、その分、教科、理科とかをがんばって、がんばるという気持ち。

T05:勉強だったら、手を使わずにできるもんね。

C03:体育もできないで、つらい思いをしたけど、がんばれば、医者にもなれるという気持ち。

C04:その頃は、医者になりたいと思ってないよ。

T06:考えてなかったけど、つらくて、がんばった後のことを考えていたんだね。なるほど。

C05:03くんと似ているんですけど、いい仕事についてお母さんを楽にさせてあげたい気持ち。

T07:なるほど、お母さんのため。

C06:似てます。(3名ほど)

T08:ちょっとここまでにしましょう。やっぱりつらいけど未来のためにがんばろうという気持ちもあったし、お母さんのため、ということもあるのでしょうかね。さっきもあったけど、小さいときに体育ができないというのはね、みんなとしては大変なことですね。

17分

で、中学になって、作文を書いたんです。「ぼくは左手が不自由で…」というのを書いたら、それ見て、みんなの心が動いたんだね。それで寄付をして手術を受けられるようになりました。

うちのクラスで言うと、例えばAくんが大変なけがをして、そしたら、みんながお金を集めて、手術をする、そんな感じですね。

そしたら、手術は大成功！よかったね。腕のいい、渡辺先生という人が、清作さんの手を動けるようにしてくれたんだね。

[発問②]

左が動くようになって、清作さんは、左手が動いた瞬間だよ。「ああ動く！」というのがわかったときに、いろいろ考えたと思うんだけど、どんなことを考えたのでしょうか。

C07:こんな評判のいい先生みたいな医者になって、病気をなおしたりとか、お母さんを安心させてあげたい。

C08:その人は、手を治してもらって、すごくうれそうな感じがしたから、野口英世さんも、みんなが悲しんだり、喜んでもらえたりというか、腕がよくて、完璧に治ったと言われるような医者になりたいと思いました。

T09:なるほど、うれしい。→自分もお医者になってみたい。という感じね。

C09:これも、自分の先生や友達とか、渡辺先生のおかげだと思って、とても感謝しているし、08さんと同じで、自分のそりたい。

C10:ああ近い！

T10:じゃあつけたしで、10くん

C11:みんな、お金とか出してくれたから、やさしいなあ。

T11:優しいというのは、友達、先生、母、…なるほど

C12:渡辺先生が治してくれた。すごいな。

T12:これは、うれしいとはちょっと違うね。渡辺先生すごいな。医学と言い換えてもよいと思います。たくさん手をあげてくれてうれしいんだけど、ここに書いてあるのとは、別の意見はありますか。

C13:これで勉強に集中できる。

T13:すでに次のことを考えていたんだね。

23分

T14:手術が成功して、青年になってからだね。ずいぶん大人になりました。清作さんは渡辺先生のところで勉強にできるようになったのですね。よかったね。すごいよ、もう。仕事をして、その後に勉強をしているんだよ。例えば先生が君たちに勉強を教えた後に8時からじゃあお医者様の勉強をします。ということだよ。3時間しか寝ない。君たちは遊んでそういうのはあるかもしれないけど、勉強してだよ。先生はたまに仕事が終わらなくて、夜中の何時まで仕事をするとときがあるけど、目がとろんとして何をやっているのか、訳が分からなくなるね。ここをぜひみんなに考えてほしいのです。

[発問③]

勉強を続ける清作を、支えたものって何だと思いますか。私だったらとても無理ですね。こういうことは、なぜ、清作さんはこんなことができたのでしょうか。それを支えていたのは何だったのかな。

- C14: 私は、中学校時代の友達や、お母さんだったと思います。なぜかという、手が治ったのは、みんなのおかげで、それで、僕も一生懸命勉強してみんなに恩返しをしたいという気持ち。
- T15: そういう考えに近い人いますか。
- C15: 左手が動く…せっかく寄付を集めてもらったから、いい結果を出さなきゃという気持ち。
- C16: 周りの人で、お母さんの励ましとか、渡辺先生や、友達に支えられていた。
- C17: 私は、自分の左手だと思います。動かなかったのは、かわいそうだけど、手術をしなかったら渡辺先生にも会えなかったし、医者を目指さなかったと思うから…左手のおかげだと思います。
- T16: おもしろい考えだね。左手！
- C18: 渡辺先生は、手術をするときに、清作を治してくれたから、渡辺先生の元で勉強して、いいお医者さんになりたいと思った。
- T17: 今は、周りの人に支えられた、という意見が多くありましたね。他に、周りではなく、自分のことについて考えた人はいますか。
- C19: 勉強は、立派なお医者さんになりたいから、という思いがあって、お医者さんになりたいという思いが支えていたと思います。
- C20: 動くようになった左手をすばらしいなあと思えるようになったから、がんばれたと思います。
- C21: 医学で、自分でも手術を受けて、何でも決してあきらめないお医者さんが、一生懸命勉強している自分にとって、自分にもこんなことができたなあと思ったと思う。
- C22: 「天才なんて…」の「努力だ。」だと思います。理由は、子どものころは、寒い道もちゃんと歩いて、いっぱい勉強して、それで、努力してがんばったから、その努力の成果がでて、がんばれていたと思います。
- C23: 経験だと思います。やけどしていなかったの、医学の道を目指さなかったから、そういう思いがあってがんばれたのだと思います。
- C24: ぼくは、17 が言った左手に注目したんですが、左手に勇気をもらったのだと思います。なぜなら、左手が不自由でなかったら、ふつうの生徒のように、勉強なんていいやと思ったりしたと思うけど、左手が不自由だと、体育ができなかったりして、そのかわり勉強をがんばろうという気持ちが出たのだと思います。
- C25: ぼくは、努力というのは、勉強で努力して、医学の道に進もうとしていたと思います。左手をやけどしたのは、あまりよくないけど、たまたまそうなっちゃって、その分いっぱいがんばれたのだと思います。
- C26: ぼくは、17さんと、24くんに似ていて、左手なんですけど、左手が不自由な分、勉強をがんばろうと思っていました。
- C27: ぼくは、一生懸命やれるのは、医者になろう、と思って、夢に向かって、努力をしているから、努力をたくさんすれば、あれほどいい医者になれるかもしれないからがんばれるし、がんばって有名なお医者さんになれたということは、いろいろな勉強をやる力は、そういう経験と、周りの人の支えと、お医者さんになろうとする思いがあったと思います。だから、世界でも認められる、一番有名なお医者さんになれたと思います。
- C28: 25に近いんですけど、英世さんは、小さい頃から左手が不自由でも、どんなにつらくてもがんばろうと思って、つらいつらいって思う気持ちもあったと思うけど、お母さんに励まされて、ぜったいに努力すれば何でもできるんだと思っていたから、勉強を続けていたのだと思います。
- C29: 左手なんですけど、つらいんだけど、そういうことが一つもないと、これからつらいことを乗り越えていけないから、がんばったと思います。

C30:左手をけがしなかったら、医学のすばらしさに気づかなかったと思うので、左手のおかげだ
と思います。

T18:ここまでにしましょう。すごい、たくさんでたね。今意見があったのは、左手ですね。28さん
の言葉をかりると、つらいことがあったけど、それを乗り越えていけたこと、だからがんばれ
たんだ。という思いもあれば、やっぱり自分の夢に向かってがんばろう、努力しよう、あきら
めない、という気持ちもあるし、自分を支えてくれた人への感謝もあるんだね。

【展開後段】41分

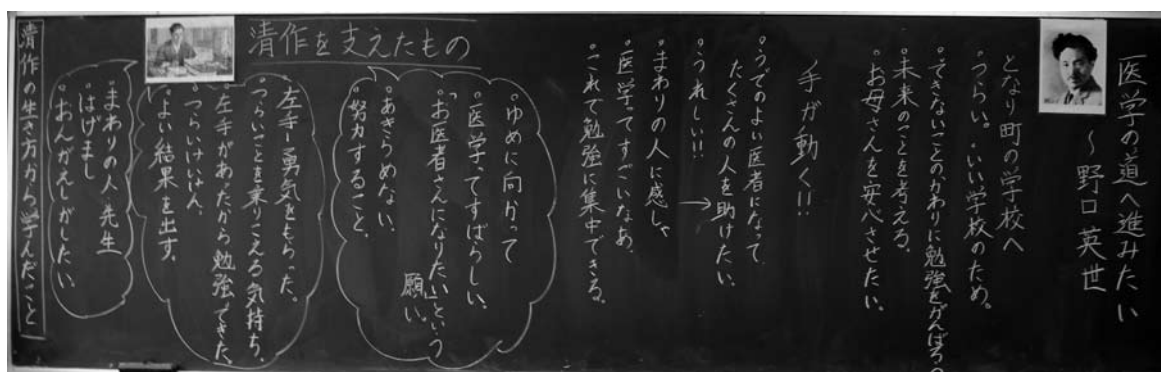
T19:最後は学習感想を書いて、心の学習を終わりにしたいと思います。

清作の生き方から、学んだこと、そしてもうひとつ、自分はめあてをもってがんばっているか。
これを学習感想としてまとめてください。

【終末】

時間がなくて、カット

授業後の板書



7. 考察

成果

- ①子どもたちがとても興味をもって取り組み、活発な話し合いになった。
- ②中心発問では、努力についての多様な意見が表された。さらに児童が考えをつなげていき、意見の響き合いも見られた。仲間と学び合うよさを感じていたようだ。
- ③展開での話し合いや、学習感想などを通して、自己のふりかえりが自然にできていた。

課題

- ①教師の子どもの意見の受け止め方が悪い。浅く解釈したり考えを変えてしまって板書している。
 - ・C08は、「自分の喜びを他の人にも分けたい」といい意見を言っているが、教師が浅く捉えてやすっぽい考えにまとめてしまった。
 - ・T12も、渡辺先生に対する尊敬を言っているのに、勝手に医学にまとめてしまった。その後、医学への憧れの意見が続き、結局教師の思いを優先した授業になっている。
 - ・C22も、努力の継続というすばらしい視点で言っているのに、見逃している。
- ②教師の話が長すぎる。よけいなたとえ話が多い。話が脱線したり子どもの意識が離れたりした。
- ③書く時間の確保ができなかった。
- ④C28、29の発言から自分の弱さに向き合う、という視点の話し合いにも踏みこみなかった。

